

## 第4章 広域的な共助・支援による雪処理の担い手確保と活用

### 4 - 1 本章の基本的考え方

地域における雪処理は、その地域内で対処するのが基本である。しかし、平成18年豪雪で明らかになったように、地域一体が豪雪に見舞われた場合、住民、行政、除雪業者、ボランティア等のいずれの担い手も手一杯となり、地域内での対応が現実的に困難な状況となる。

災害救助法に基づく自衛隊派遣や財政的支援、自治体間の協定等に基づく行政職員の派遣など、自治体の枠を超えた公的な支援策を講じる一方で、今後の豪雪時に備えて、地域内のみでなく地域外を含めた広域的な共助体制を構築し、地域外ボランティアを含めた多様な雪処理の担い手確保と活用に努めることが今日的な課題となっている。

本章では、最初に、都市部の若者・学生を周辺の豪雪地の担い手として活用する取組として、北海道部会における「ホームステイ型除雪支援実験」及び「ホームビジット型除雪支援実験」の結果を報告する（節4 - 2）。

次に、雪処理の担い手として、冬期間の農業従事者の潜在力に着目し、周辺地域の農業従事者と連携した雪処理支援の可能性を検討した秋田部会の調査結果を報告する（節4 - 3）。

広域的な共助・支援においては、豪雪になってからあわてて取り組むのではなく、平時からの関係づくりが不可欠であり、そのためには一方的に支援を受けるのではなく、双方向性のある交流的な要素も重要となる。新潟県湯沢町では、平成18年豪雪時に地域外から多数の除雪ボランティアを受け入れており、これを契機として地域外ボランティアとの継続的な関係づくりを展開している。そこで、新潟部会で実施した「湯沢町福祉除雪ボランティア隊交流会」について報告する（節4 - 4）。

また、地域外の雪にあまり慣れていない人から協力を得る場合、雪処理作業に必要なスキルや事故を防ぐための知識を教えるとともに、雪に慣れてもらうことが重要である。さらに、その人のスキルに応じた役割・作業を配分したり、活動する地域・場所を調整するなど、コーディネートの機能が極めて重要となる。これらの新しい課題に対して、新潟部会では、「越後雪かき道場」というプログラムを開発し、実践を通して仕組みを構築してきており、その成果を報告する（節4 - 5）。

最後に、地域外からの協力を得るにあたり、受入側としては、その人たちが事故や怪我、病気、体調不良等にならないよう、最大限の注意を払わなければならない。すなわち、今後の重要課題の一つとして、除雪ボランティアの安全衛生の確保があり、想定しうる様々なリスクを明らかにし、環境整備のあり方について包括的に検討する必要がある。そこで、先の「越後雪かき道場」と並行して実施した「除雪ボランティアの安全衛生に関する調査」の成果を報告する（節4 - 6）。

## 4 - 2 都市部の若者・学生等を活かした雪処理支援の仕組みづくり

### 1 ホームステイ型除雪支援実験

【北海道部会】

#### (1) 実施目的

他地域から雪処理の担い手を確保し、平時より他地域との交流を基にした雪処理の相互扶助のあり方を検討することを目的に、観光や留学などで北海道を訪れた人が高齢者世帯でホームステイし、交流を深めながら除雪支援を行う実験を実施した。

#### (2) 実験概要

##### 実施期間

平成 19 年 2 月 16 日（金）～2 月 19 日（月）（3 泊 4 日）

##### ホームステイ対象者（以下、ゲスト）

首都大学東京大学院に在学中の留学生 4 名（韓国出身：女性 2 名、中国出身：男性 2 名）

##### 受入家庭（以下、ホストファミリー）

札幌国際プラザのホームステイ制度に登録している家庭 4 世帯

##### 費用

- ・ゲストに対し、札幌までの交通費の一部と国内旅行保険を支給
- ・ホストファミリーに対し、ゲスト送迎経費の一部を支給

図表 4 - 1 ホームステイ型除雪支援実験 全体スケジュール

月日	内 容
2/16（金） 午前 13:30  14:15 頃 16:00 頃	ゲストが札幌市内に到着 ゲスト対象のオリエンテーション（於：札幌国際プラザ 3 F 会議室） ・ 実験内容の確認（dec） ・ ホームステイ注意事項の説明（国際プラザ） ・ 除雪講習会（須田先生） 対面式（於：札幌国際プラザ 3 F 会議室） ・ ホストファミリーとゲストの紹介（国際プラザ） ・ 滞在時の注意/連絡事項の説明、確認（"） ・ アンケートの配布（dec） 게스트、各ホームステイ先へ
2/17（土） 8:30  21:30 頃	ゲストが札幌駅に集合 除雪体験日帰りツアー「雪はね体験隊！」に参加（於：上富良野町） ゲストが札幌駅に到着、解散 게스트、各ホームステイ先へ
2/18（日） 終日	ホストファミリーとの交流
2/19（月） 午前 13:30	ホストファミリーとの交流 解散式（於：札幌国際プラザ） ・ アンケート回収（dec） 게스트、新千歳空港へ

(3) オリエンテーションの実施

実験の開始にあたり、オリエンテーションとして、札幌国際プラザ会議室にてプログラムの概要や注意事項の説明を行うとともに、須田委員の指導の下、実際の高齢者宅で除雪実習を行い、雪かき時の良い姿勢と悪い姿勢の例などを実演した。

(4) ホームステイ中の除雪作業

4名のゲストは、ホームステイ期間中、それぞれのホストの家屋周りの雪かきを実施した。

図表4-2 ホームステイ中の除雪作業の様子

<p>Aさん</p> <p>左：作業前 右：作業後</p>		
<p>Bさん</p> <p>ホストが車庫の屋根雪を下ろし、ゲストが運搬</p> <p>左：作業前 右：作業中</p>		
<p>Cさん</p> <p>融雪槽に雪を投げ入れる</p>		
<p>Dさん</p> <p>車庫と家の周辺を除雪</p>		

(5) ホームステイ型除雪支援実験の評価 - アンケート結果 -

1) ゲストのアンケート結果

- ホームステイ先の除雪は全員が体験し、事故なく安全に作業ができた。
- ホームステイ全体のプログラムを通して、3名が「良かった」「また参加したい」と回答したが、1名が「どちらとも言えない」「参加したくない」の回答であった。
- 次回の参加意向がない1名は、他3名と違って、ホームステイ先の除雪を単独で行っていた。このように、除雪作業を単独で行う場合と、ホストファミリーと一緒にいる場合では、ホストとゲストの交流の内容や質が異なると考えられる。
- プログラムの今後の課題として、ゲストの一人は、除雪作業が必要となる天候やタイミングに合わせて計画する、滞在先から離れた場所(上富良野町)でのボランティア除雪は移動時間が長く非効率的であるため、滞在先近隣でのボランティア除雪が望ましい、等を指摘していた。

図表 4 - 3 ホームステイ型除雪支援実験 アンケート調査結果(ゲスト)

項 目		結 果
参加理由	参加したいと思った理由	・「北海道に行きたかった」と「除雪を体験したかった」がゲストに共通した理由
ホームステイ先の除雪体験	実施日	・2/18のみが2名、2/18-19の両日をした人が2名
	作業時間	・全員が午前中のみの作業 ・最長が1時間半
	作業内容	・玄関及び家周辺の除雪と運搬排雪作業が中心 ・ホストの屋根の雪下ろしの手伝いや融雪槽への投雪を体験したゲストもいた ・ホスト宅だけでなく、両隣の高齢者宅の歩道除雪を実施したゲストもいた
	作業体制	・一人を除く全員がホストと一緒に作業
	作業の疲労度	・「ちょうど良かった」が3名、「思ったより楽だった」が1名。
	作業の安全度	・全員が「安心して作業できた」
	作業中に困ったこと	・全員が「なかった」
	作業の事前準備	・全員が「役立った」
プログラム全体の満足度	今回のホームステイの感想	・3名が「よかった」 ・残り1名は「どちらとも言えない」
	今後の参加意向	・3名が「はい(今後も参加したい)」 ・残り1名は「いいえ(参加したくない)」
感想	<p>・このような良い機会をつくってくださり本当にありがとうございます。良い経験をたくさんして楽しかったです。</p> <p>・雪が少なく今回はちょっと残念。この数日間に雪が降っていないため、役に立つことは出来なかった。天候やタイミングの選定することも今後の活動設計の留意点になるのではないかと思う。</p> <p>・スケジュールの作成もより効率的なものをつくることを深く考えるべきであると思う。ホストファミリーはもちろん、ホストファミリー以外の所で活動する場合には、滞在地の近いところ(移動時間がたくさんかからないところ)を選べると、時間的に効率的であり、体力にも楽(負担にならない)になり、もっと良く役に立つことができると思う。</p>	

## 2) ホストファミリーのアンケート結果

- ホストファミリーの募集段階では、除雪を必要とする家庭を見つけるのが困難であったが、最終的には、全てのホストファミリーが日常的に除雪する家庭であった。
- 今冬は例年よりも少雪であり、ゲスト滞在期間中もまとまった降雪が見られなかったが、それぞれのホスト先ではゲストに除雪する機会を備えたように思われる。中には、近隣の高齢者宅前の歩道除雪を一緒にしたケースもあった。
- ゲストの除雪体験についても、ホスト全員が肯定的であり、ゲストの働きぶりに感心していた。障害を持つホストと60歳代、70歳代のホストについては、ゲストが除雪することで「助かった」とコメントしている。
- ゲストに除雪を依頼することはホスト全員が「良い」と考えており、そのうち、「交流」や「異文化理解」の一助になることを示唆するコメントもあった。
- あるホストは、除雪に慣れていないはずのゲストが意外にも上手にスコップ等を使って除雪しているのを見て安心したとコメントしたが、これは事前の除雪実習や上富良野での除雪体験が活かされているものと考えられる。
- ゲストの感想にもあったが、ホストの感想にも、ホームステイ先から遠方へのボランティア除雪は時間や体力的にも無理があるため、ホームステイ近辺での活動が望ましいとのコメントがあった。今後のプログラムを検討する上で十分配慮すべき点である。

図表 4 - 4 ホームステイ型除雪支援実験 アンケート調査結果(ホストファミリー)

項 目		結 果
属性	性別・年齢	・40代～70代まで
	ホストファミリー歴	・1家庭は初めて、残りは4年～30年のホストファミリー歴あり
	家族構成	・3家庭は夫婦、1家庭は子供2人の4人家族
	居住年数	・1年～30年と幅広い
	居住形態	・3家庭は「戸建て」、1家庭が「アパート/マンション」
除雪習慣	居住場所での除雪 ・ご自分で(または家族)定期的に家や周辺を除雪しますか	・全家庭で「する」 ・玄関/出入口の他、車庫/駐車場、屋根もあった
ゲストの除雪体験	体験の有無、実施日、時間	・全家庭で「はい」 ・体験実施日はゲストとの記録のズレがあったが、作業内容は同じ
	作業内容	・「玄関/出入口等を除雪」「雪を運び出す(運搬排雪)」が中心 ・その他、車庫の屋根の雪下ろしの排雪、近所の高齢者宅前の歩道除雪などもあった
	印象	・ゲストの一生懸命な働きぶりに感心した様子
	手伝ってもらって	・「助かった」「良かった」「安心した」など
全体	北海道の暮らしを理解する上で、ゲストが除雪を体験することについてどう思いますか	良いと思う 「異文化理解」、「交流」などに良い
感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は札幌の家庭にホームステイしながら、メインの除雪体験の場は上富良野町でした。このような形では時間的にも大変だったろうと思います。やはり除雪体験をする市町村にホームステイして、その地域の住民と交流できるようにするのが良いのではないのでしょうか？</li> <li>・札幌にも除雪ボランティアを必要としている高齢者の住宅はたくさんあります。これから色々検討すべき課題もあるかと思いますが、有意義な実験だと思えますので、若い人達ということでなく、体を動かせる人達が楽しんで参加できるように考えていただきたいと思います。</li> <li>・時期的には1月下旬頃が最も人手を必要としている時期ではないでしょうか？</li> <li>・今年は雪が大変少なく本来の北海道とはちょっと違った感じだったのが残念です。</li> </ul>	

(6) ホームステイ型除雪支援の推進に向けた課題と方向性

) 現状のホームステイ制度を活用した「除雪支援」と「交流」

- ホストファミリーとして既に登録をしている世帯は、概ね健康であり、経済的にもゆとりがあって、あえて除雪支援を受ける必要のない家庭が多かった。
- ホストファミリーに対して、実験の主旨を理解していただくことが困難であった。
- しかし、本実験に参加したホストファミリーは、アンケート調査で、ゲストの除雪体験は意義あることであり「異文化理解」のきっかけにつながるとの考えを示した。また、ゲストの除雪がホストファミリーの直接的な手助けになったことも明らかになった。

- 今後は、ゲストによるホスト先での「除雪支援」が、「交流」を深めるきっかけとして定着するように継続的な取組が望まれる。

) 日本人学生及びホストファミリー未経験世帯の「ホームステイ観」

- 日本人学生は、ホームステイを「気を遣う」「わずらわしい」ととらえる傾向が強い。
- ホストファミリーを経験したことのない高齢者も同様に「気を遣う」等、見知らぬ他人を自宅に入れることに対し抵抗感を示す。
- 最近、特に高齢者を狙った詐欺が横行し、いわゆる「除雪詐欺」も発生していることから、見知らぬ人には警戒するようとの指導を民生委員が行っている。

- 最初から「ホームステイ」を前提としたプログラムではなく、「ホームビジット」による除雪支援プログラムを導入し、除雪支援側と被支援側のコミュニケーションが深まった段階で、「ホームステイ」に移行できる仕組みが求められる。

) ホームステイ先での除雪体制

- 本実験では、1名のゲストにおいて、プログラムに対する満足度が比較的低かった。
- この1名は、ホームステイ先での除雪を単独で行っており、ホストファミリーと一緒に作業していなかった。
- 除雪作業を単独で行う場合は、ホストファミリーと一緒に進む場合よりも「労働」や「作業」の色合いが強く、ホストファミリーとの「交流」が希薄であったことが考えられる。

- 除雪作業をホームステイ先での「労働」ではなく、ホストファミリーとの「交流」のきっかけになることを前提条件として実施すべきである。

) 除雪経験のないゲスト(来訪者)に対する除雪実習

- 今回はオリエンテーションの中で除雪実習を行い、除雪未経験であったゲストに除雪の基本的な動作や注意事項を伝えることとした。
- 結果、除雪時の事故もなく安全に作業を終了できた。また、ホスト側としても、ゲストの除雪作業ぶりを見て安心するなどのコメントもあった。

- 除雪経験のない人が除雪ボランティアに参加するにあたっては、除雪実習を事前に行うことは安全確保において重要であり、今後も実施すべきである。

## 2 ホームビジット型除雪支援実験

【北海道部会】

## (1) 実施目的

他地域から雪処理の担い手を確保し、平時より他地域との交流を基にした雪処理の相互扶助のあり方を検討することを目的に、札幌在住の若者及び道外から観光に訪れた若者等によるホームビジット型の除雪支援ツアー実験を実施した。「体験・交流型」と「支援型」の2パターンを企画した。

図表 4-5 除雪支援ツアー 名称・内容・場所

パターン	名称	内容	場所
体験・交流型	雪はね体験隊!	ボランティア除雪だけでなく、地域交流、イベントを組み合わせた日帰りツアー	上富良野町
支援型	雪かきボランティア	ボランティア除雪のみの日帰りツアー	岩見沢市栗沢町 万字地区

## (2) 雪はね体験隊(上富良野町)の実施報告

## 1) 雪はね体験隊 実施概要

北海道上富良野町あすなる団地において、以下のとおり、札幌市内の大学生等を中心としたホームビジット型除雪支援ツアーを実施した。

実施日時 : 平成 19 年 2 月 17 日 (土) 8:30 ~ 21:30

場所 : 北海道上富良野町泉町 1 丁目 あすなる団地 (13 世帯対象)

参加人数 : 29 名 (事務局除く) うち 1 名は美瑛から現地参加

参加費 : 2,000 円 (食費、入浴料込み)

内容 : 玄関先、庭周辺・窓の下の除排雪、屋根雪の運搬排雪

除雪支援先との交流 (食事付き)、温泉入浴

地元で開催される冬のアートイベント「ウインターサーカス 2007」鑑賞

受入協力 : 上富良野町役場 (企画財政課企画振興班)、上富良野町商工会

受付窓口 : 有限責任中間法人シーニックバイウェイ支援センター

除雪指導 : 北海道医療大学 看護福祉学部 人間基礎科学講座 教授 森田 勲

## 留意点

- 除雪用具について
  - ・ 除雪用具 (スコップ、スノーダンプ) は上富良野町役場に準備していただく。
  - ・ 防寒具や長靴などはツアー参加者が各自準備する。
- 保険について
  - ・ ツアー参加者全員にレクリエーション保険をかける。

## 2) 雪はね体験隊 当日のタイムテーブル

8:30	JR 札幌駅北口集合
8:45	出発 <ul style="list-style-type: none"><li>・貸切バスに参加者、TV 北海道取材陣（3名）、dec スタッフ2名、ガイド1名が乗車。（この他 dec スタッフ2名は先発隊としてレンタカーにて7:30頃出発）</li><li>・しおり（抜粋）軍手、須田先生・森田先生著『人力除雪学序説』、シーニックバイウェイ情報誌「SCENE」、お茶・お弁当を配布。車内にて、事業説明、旅程確認。</li><li>・道の駅「三笠」と見晴台公園（上富良野）でトイレ休憩。</li></ul>
10:30	先発隊が上富良野町役場に集合、現地確認 <ul style="list-style-type: none"><li>・自家用車で来られた森田先生（除雪指導：北海道医療大学）美瑛からの参加者が合流。</li><li>・上富良野町役場の受入窓口担当の佐藤主査が除雪用具（スコップ、スノーダンプなど）を軽トラックに積んで現地へ誘導。</li><li>・あすなる団地住民会（泉町住民会）会長の米澤義英氏が除雪場所、作業内容を先発隊に説明、作業人数の確認。</li></ul>
12:30	国道12号の渋滞で、当初の予定より1時間遅れでバスがあすなる団地に到着 <ul style="list-style-type: none"><li>・佐藤主査が見晴台公園でバスと合流、バスを現地まで誘導。</li><li>・森田先生より除雪時の注意事項など参加者に説明。</li></ul>
12:45	除雪作業開始 <ul style="list-style-type: none"><li>・スタッフの指示で参加者を4班に分け、それぞれの班に住民会役員がついてグループに指示を出す。</li><li>・屋根の雪下ろしは上富良野町役場の担当者及び地元の方が実施。その他の除排雪作業を参加者が行う。</li><li>・各班の持ち場が終了した時点で、他の班の作業を応援。</li></ul>
14:15	除雪作業終了、撤収
14:30	あすなる団地から白銀荘へ出発 <ul style="list-style-type: none"><li>・住民会の米澤会長他2名の方と上富良野町役場の野崎主幹が食事&amp;交流会出席のためバスに同乗。</li></ul>
15:00	白銀荘到着 <ul style="list-style-type: none"><li>・地元食材の豚肉、米、ジャガイモなどを使った食事と交流会。</li><li>・温泉入浴。</li></ul>
17:30	ウインターサーカス白銀荘会場のライトアップ <ul style="list-style-type: none"><li>・同会場のライトアップが17:30~に変更となったため、出発を18時に変更。</li></ul>
18:00	白銀荘から深山峠、見晴台公園へ出発 <ul style="list-style-type: none"><li>・深山峠会場でバスをUターンさせて見晴台公園へ。</li></ul>
18:50	ウインターサーカス見晴台公園を見学、トイレ休憩
19:10	札幌に向かって出発（三笠から高速道路を利用） <ul style="list-style-type: none"><li>・バス車内でアンケート配布、回収。</li><li>・各参加者から感想を発表。</li></ul>
21:30	JR 札幌駅北口到着、解散



### 3) 雪はね体験隊 活動状況

写真 4 - 1 森田先生による除雪指導



写真 4 - 2 作業前のグループ分け



写真 4 - 3 窓の下の除雪



写真 4 - 4 下ろした屋根雪の運搬排雪



#### 【特記事項】

- 平年より雪が少なかったが、融けて凍った雪山や氷の固まりが住宅周辺に積み上げられているため、非常に重い雪（氷）の処理や運搬排雪が作業の大半を占めていた。
- 作業中の天候は良好であったため、防寒具を脱いで作業することになった。半袖・Tシャツ姿で作業する参加者も多く、体温調整に十分配慮した服装準備が必要と考えられる。
- 固まった雪や氷が多かったため、スコップ1本、つるはし1本、スノーダンプ1台が破損した。そのうち、つるはしとスノーダンプは地元住民が所有していたものであり、本来であれば主催者側が弁償すべきであったが（注：通常であればレクリエーション保険が適用）住民会長のご懇意により住民会で新規購入をすることになった。このような作業中の破損に関する事後処理の方法については今後の課題である。
- 帰りのバス車両の中での意見によると、参加者の満足度はかなり高く、参加者自身も期待以上のものであったことがうかがえる。
- しかし、移動時間が長い中で様々なプログラムを消化せざるを得ない過密スケジュールであったため、地元との交流の時間が十分でなかった等の問題がアンケートで指摘されていた。
- 移動中や除雪作業前後のトイレ休憩のタイミングは、当初のスケジュールではあまり考慮されていなかったため、場合によっては、除雪現場でのトイレ確保に奔走しなければならないケースも想定される。作業時のトイレ休憩のタイミングは十分配慮が必要である。

(3) 雪かきボランティア(岩見沢市栗沢町)の実施報告

1) 雪かきボランティア 実施概要

北海道岩見沢市栗沢町万字地区にて、以下のとおり、札幌市在住の大学生によるホームビジット型除雪支援ツアーを実施した。同地区は、岩見沢市街地から約20km山間に入った旧産炭地であり、高齢化率が60%を超える特別豪雪地帯である。

日 時 : 平成19年2月14日(水)  
場 所 : 北海道岩見沢市栗沢町万字地区の独居老人宅2軒  
募集方法 : 北海道大学内に募集チラシを掲示  
参加者及び参加人数 :  
北海道大学名誉教授 須田 力 氏  
北海道医療大学教授 森田 勲 氏  
除雪支援ツアー応募者 10名  
事務局 2名

2) 雪かきボランティア 当日のタイムテーブル

8:00	北海道大学正門前集合
	・須田力名誉教授から、万字地区の概要説明(高齢化の状況、除雪場所の説明)。
8:10	出発
	・学生8名がレンタカー2台に分乗。
	・自家用車で参加している方1名。
	・計3台で万字交通センターへ向け出発。
10:30	万字交通センター到着、除雪作業開始
	・自家用車で来られた森田教授と合流。
	・須田名誉教授の指示で2グループに分かれ、それぞれの除雪場所へ移動。
	・除雪場所 - 須田名誉教授、万字地区町内会長、事務局員1名、一般男性1名、学生3名(全員男性)が担当。
	・除雪場所 - 森田教授、事務局員1名、学生5名(男性3、女性2)が担当。
11:30	除雪場所 の除雪終了
	除雪場所 の応援に移動
13:00	除雪場所 の除雪終了
	・北海道岩見沢市栗沢町美流渡に移動。
13:30	北海道岩見沢市栗沢町美流渡にあるラーメン屋にて昼食
	・アンケート用紙配布・記入・回収。
14:30	札幌へ向け出発
15:50	北海道大学近辺にて解散

## 3) 雪かきボランティア 活動状況

参加者は出発に先立ち、須田力北大名誉教授から、岩見沢市栗沢町万字地区における高齢化の状況、今日に至るまでの歴史的経緯、除雪支援対象の独居老人宅についての説明を受けた。

今回の除雪対象世帯は2軒であり、2グループに分けて作業を行った。除雪場所は、須田名誉教授、事務局員1名、一般男性1名、学生3名(全員男性)が担当となり、これに地元の協力者として万字地区の町内会長が参加した。作業内容としては、須田名誉教授、万字地区町内会長、一般男性、事務局員が屋根の雪下ろしを担当し、学生3名は、家屋周り及び屋根の除雪を担当した。

除雪場所は、森田教授、事務局員1名、学生5名(男性3、女性2)が担当となり、家屋周りの除雪を行った。

なお、作業の最中に近隣住民から、雪捨て場についてのクレームが寄せられた。

写真4-5 除雪場所 作業前



写真4-6 除雪場所 作業後



写真4-7 除雪場所 作業前

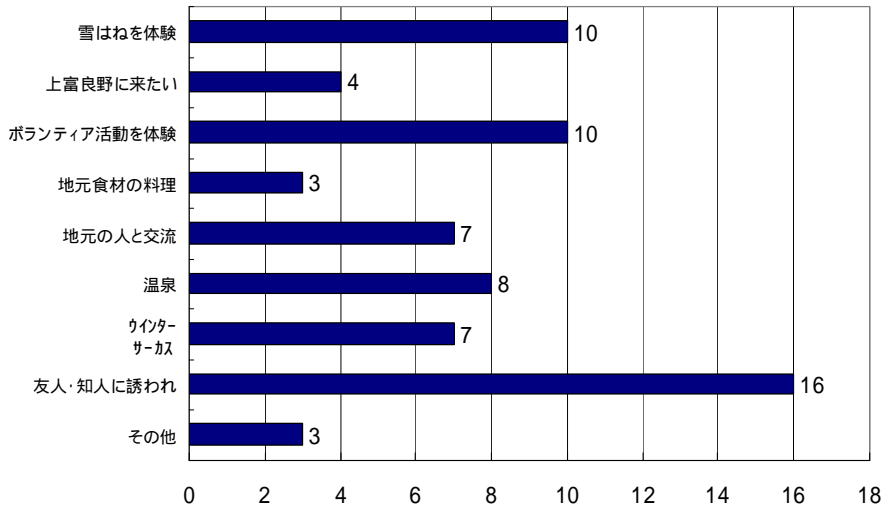


写真4-8 除雪場所 作業後

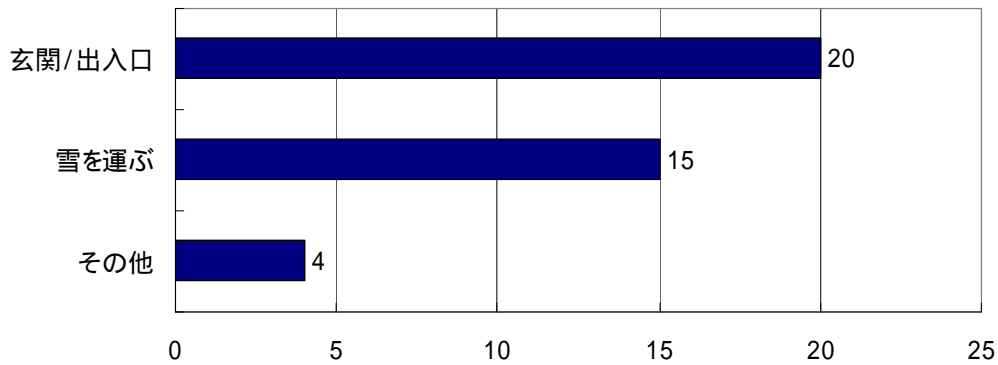


(4) ホームビジット型除雪支援実験の評価 雪はね体験隊参加者アンケート(回答者29名)

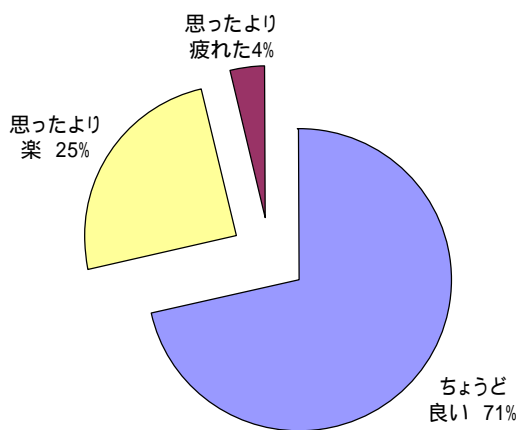
図表4-6 参加理由(複数回答)



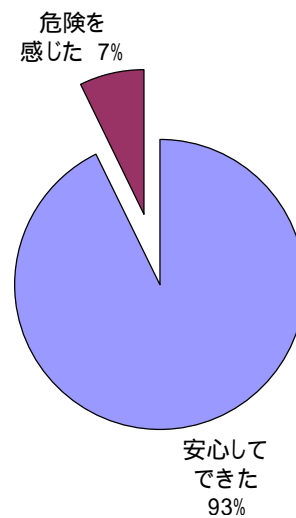
図表4-7 雪はね体験:作業内容(複数回答)



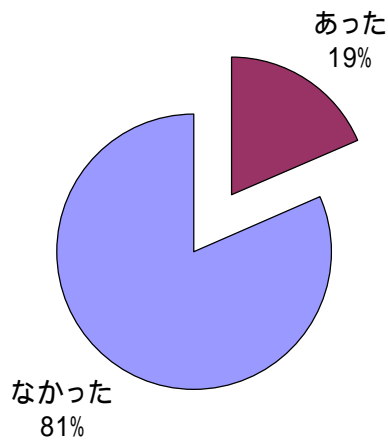
図表4-8 雪はね体験:疲労度



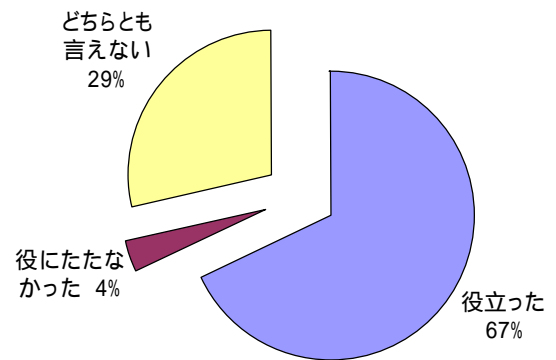
図表4-9 雪はね体験:作業の安全性



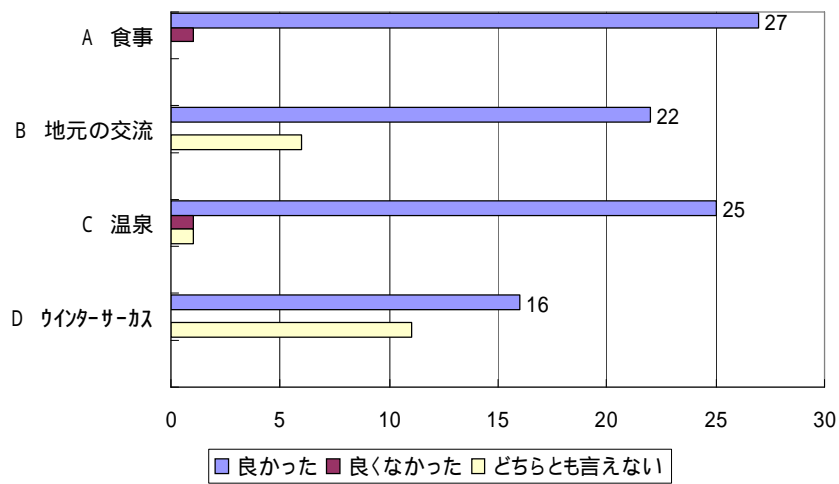
図表 4-10 雪はね体験：困ったこと



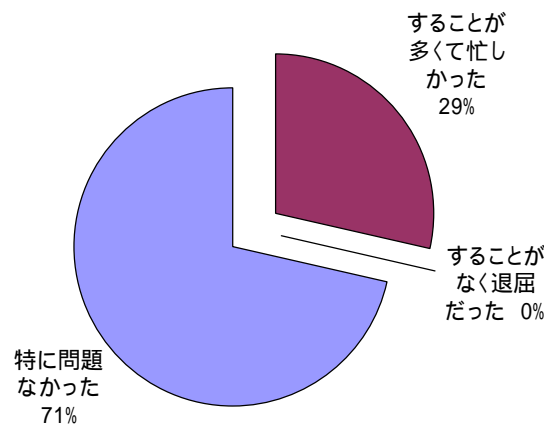
図表 4-11 雪はね体験：冊子・事前説明



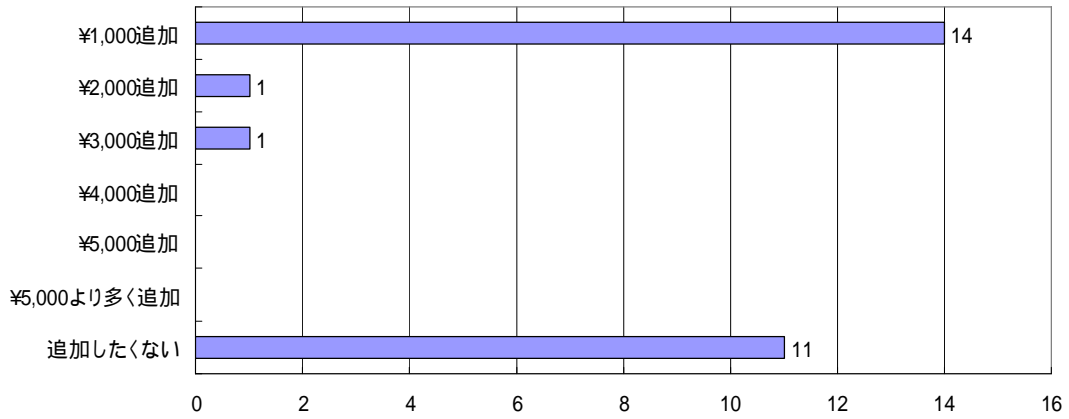
図表 4-12 除雪後のアクティビティに対する満足度



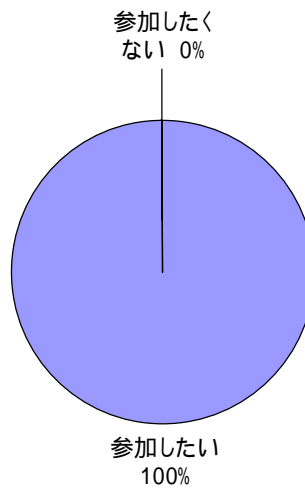
図表 4-13 当日スケジュールの感想



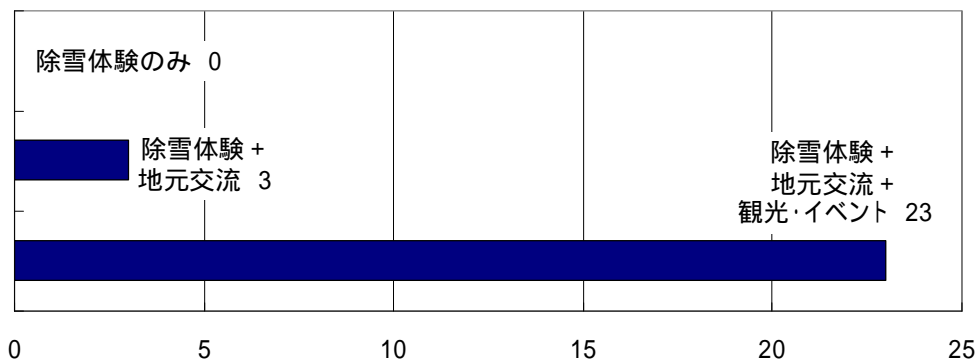
図表 4 - 14 参加費の支払い意思



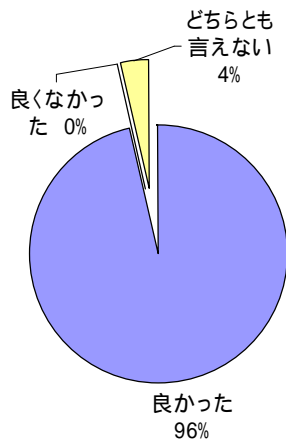
図表 4 - 15 宿泊を伴った場合の参加意向



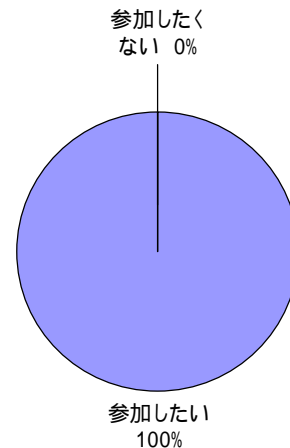
図表 4 - 16 宿泊を伴った場合に希望するプログラム



図表 4 - 17 全体を通しての満足度



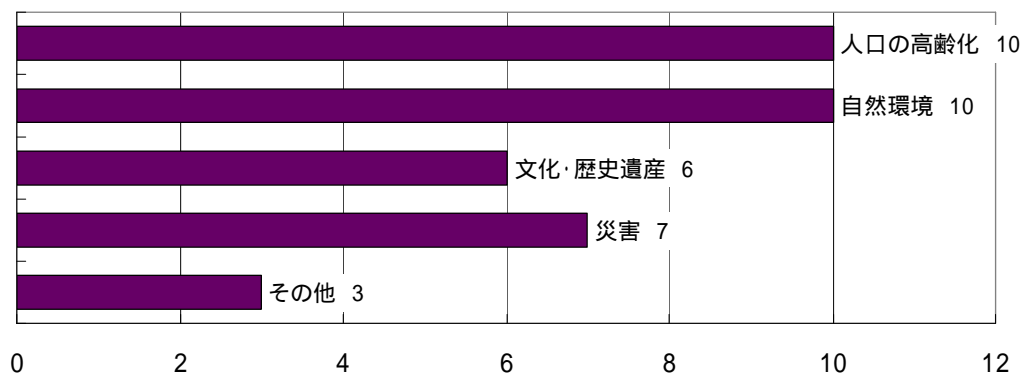
図表 4 - 18 同じ体験ツアーへの参加意向



図表 4 - 19 全体を通して印象に残ったこと

・地元の方に喜んでもらった
・初めて雪はねがおもしろくなった
・地元の方に喜んでもらった
・温泉、混浴は最高
・良かったけど、ご飯の時間帯が微妙でした。昼ご飯が食べづらかったです
・ウインターサーカスが素晴らしい
・思ったよりも時間があつという間でした、やはりおばあちゃんの笑顔が素敵でした
・お年寄りの役に立てて良かった
・いい流れだった

図表 4 - 20 同じ体験ツアーが企画された場合に希望する地域



- 人口の高齢化 : 人口の高齢化が進み、除雪する人がいない地域
- 自然環境 : 自然環境の破壊が進んでおり、保全が必要な地域
- 文化・歴史遺産 : 文化や歴史遺産の破損・倒壊が危ぶまれる地域
- 災害 : 地震、洪水、豪雪、火山噴火等の災害に見舞われた地域

(5) ホームビジット型除雪支援推進の課題と今後の方向性

1) 雪はね体験隊について

) 除雪作業時のルールと事前準備の徹底

- 除雪作業用のスコップ及びスノーダンプは主催者側で準備したものを参加者に提供したが、作業中は参加者が地元住民の用具も使用し、破損してしまった。

- 今後は地元住民の用具は使用せず、主催者側の用具の使用を徹底する必要がある。
- 地元住民側にも作業中の用具の貸し出しはしないようお願いすることも必要である。
- 除雪現場の雪質や作業内容に適した用具を主催者側が準備する必要がある。

) 柔軟性のあるプログラムの作成

- 平年より少雪であったため、十分な除雪作業ができるかどうか不明であった。天候によっては作業場所や内容についても実施直前で見直しを余儀なくされる。
- 今回のプログラムは、移動時間が長く、アクティビティも盛りだくさんであったため、参加者の約3割が「することが多く忙しい」という印象をもった。
- 作業中でのトイレ休憩などは当初のスケジュールではあまり考慮されていなかったため、場合によっては、除雪現場でのトイレ確保に奔走しなければならないケースも想定される。

- 当初の予定通りに除雪ができない天候になっても、ツアーそのものをキャンセルするのではなく、代替プログラムを準備する等の工夫が必要である。
- 時間配分にゆとりをもたせ、状況に応じてプログラムを変更する工夫が求められる。

) 宿泊滞在するホームビジット型除雪支援の検討と課題

- 「宿泊を伴ったツアーでも参加したい」という意向が多く、その場合でも、除雪ボランティアだけでなく、地元の交流や観光・イベントと合わせたプログラムを望む声が大きかった。
- 「雪かきボランティア」の参加についても同様の傾向がみられた。
- 日帰りよりも時間的にも余裕のある宿泊滞在型を実現するためには、除雪支援先での宿泊施設が必要となる。過疎地域に行くほど宿泊先の確保や受入側の体制づくり(宿泊場所や食事等)が課題となり、アクティビティの選択肢も狭くなる可能性がある。

- 過疎地域で多少不便な生活であっても、無理なく楽しめるプログラムを検討する。
- 受入先が準備のために過度の負担を強いられないような工夫が必要である。

) 予算確保

- アンケート結果から、今回の参加費(2,000円)に1,000円追加しても良いと回答した参加者は全体の約半数を占めたが、約4割は「追加したくない」であった。
- 今回の参加費は、入浴料と食費のみであり、その他の経費を補う金額ではなかった。

- 経費を補える予算確保(スポンサーなど)が今後の課題である。



## ) 継続性のある担い手づくりの仕組み

- 「ホームビジット型除雪支援」は、短期的に成果を上げることが期待できる取組である。しかし一過性のボランティア活動で終わってしまい、必要とする地域にとっては継続性のある「担い手」に結びつかないという懸念もある。
- 「ホームビジット型除雪支援」に参加しても、普段の生活に戻ったときに、その体験を直接活かせる場がなければ、体験そのものが風化する可能性が高い。したがって、参加者を継続性のある「雪処理の担い手」として育成していくため、例えば札幌市福祉除雪事業といった、身近な地域での除雪ボランティア活動が受け皿となって、活動の場を提供するなどの連携的な仕組みづくりが望まれる。

- 各地域での除雪ボランティア活動と連携した仕組みづくりが望まれる。

## 2) 雪かきボランティアについて

## ) 参加者の確保

- 本実験の参加者は、除雪経験があり、かつボランティア経験がある者が多く、除雪体験をするというよりもボランティアをするという目的で参加していると考えられる。
- 募集方法にもよるが、概して、ボランティア活動に対する意識が高い者ほどホームビジット型除雪支援ツアーに参加する可能性が高い。
- 今後、参加者を募集するに際して、本実験のようなボランティア意識の高い層をターゲットとするのか、あるいはボランティア意識は高いものの、実際に行動にまで至らない層や、ボランティアに参加する可能性があるにもかかわらず、知識がなくボランティア意識が高まっていない層等をターゲットとするのかを明確にする必要がある。

- 参加者の意識に合わせた効果的・効率的な募集体制が望まれる。

## ) 除雪作業の内容・手順の確立

- 作業「量」については、本実験は適度であったと考えられる。「思ったよりも楽だった」という回答もあったが、性別や年齢等を考慮し、なるべく多くの参加者を募るならば、本ツアー程度の作業量が適切であると考えられる。
- 作業「内容」については、屋根からの雪下ろしと家屋周辺の除雪を同時に行った場合、家屋周辺の除雪作業をしている者が危険を感じるため、時間差を設けて作業を行うなどの措置が必要である。
- 雪捨て場を間違えると近隣住民から苦情が出る場合があり、留意が必要である。

- 作業手順等を確立するとともに、近隣住民の理解を得るような体制づくりが必要である。
- 具体的には、支援ツアーの対象エリア居住者との綿密な連携を確立することが肝要である。

### 4 - 3 周辺地域の農業従事者を活かした雪処理支援の仕組みづくり

農業従事者の除雪協力の可能性検討調査 (大潟村)

【秋田部会】

(1) 調査の概要

調査方法 : 郵送配布・郵送回収によるアンケート調査

調査窓口 : 大潟村社会福祉協議会

調査対象者 : 村内の農業従事者 100 世帯

回収数 : 62 世帯 (回収率 62%)

調査項目 : 豪雪発生時の除雪協力の参加意向、除雪協力可能地域、除雪協力時の経費の条件  
自身の除雪機材・農業用機材等の保有状況・利活用状況

(2) 調査結果

1) 豪雪発生時の除雪協力

図表 4 - 21 除雪協力への参加意向

条件によっては参加しても良い	参加しない	無回答
49	9	4
79.0%	14.5%	6.5%

( N=62 )

図表 4 - 22 除雪協力可能対象地域

村内に限定	隣接市町村の範囲まで	片道 1 時間程度の範囲まで	片道 2 時間程度の範囲まで	片道 3 時間程度の範囲まで	県内であればどこでも可能	無回答
13	24	4	4	0	4	0
26.5%	49.0%	8.2%	8.2%	0.0%	8.2%	0.0%

( N=49 )

図表 4 - 23 除雪協力時の経費の条件

経費負担は不要	交通費は全額負担	交通費は全額負担 + 謝金	無回答
29	13	3	4
59.2%	26.5%	6.1%	8.2%

( N=49 )

## 2) ご自身の除雪機械・農業用機械等の保有状況・利活用状況

図表 4 - 24 除雪機の保有状況

保有している	保有していない	無回答
10	49	3
16.1%	79.0%	4.8%

( N =62 )

図表 4 - 25 除雪機の保有台数

1台	2台
9	1
90.0%	10.0%

( N =10 )

図表 4 - 26 農業用・建設用機械の除雪への活用状況

農業用機械 を除雪に活 用している	建設用機械 を除雪に活 用している	どちらも活 用している	どちらも活 用していな い	無回答
14	2	3	29	14
22.6%	3.2%	4.8%	46.8%	22.6%

( N =62 )

図表 4 - 27 農業用・建設用機械の除雪への活用意向

農業用機械 を除雪に活 用すること ができる	建設用機械 を除雪に活 用すること ができる	どちらも活 用すること ができる	どちらも活 用すること はできない	無回答
22	2	6	16	16
35.5%	3.2%	9.7%	25.8%	25.8%

( N =62 )

## 【農業用・建設用機械を除雪へ活用できない理由】

- ・ 排土板の拡張等整備に金がかかるので今は使用できない。
- ・ 除雪に活用できる装置（ブレードなど）が装備されていない。
- ・ トラクターはあるが冬期、田んぼの小屋に格納している。
- ・ 保管場所がない。
- ・ 田んぼにあるので。

### (3) 結果の総括と今後の方向性

#### 【調査結果】

大潟村の農業従事者を対象としたアンケート調査によると、8割近くの者は豪雪時の除雪協力に参加可能であると回答している。しかしながら、協力可能な地域は村内か隣接市町村までとする者が7割以上みられることから、広域での除雪協力体制を構築することは難しそうであり、隣接市町村間等の地域内での協力体制ならば可能性は高そうである。また、除雪協力時の経費については、「不要である」と回答する者が約6割、「交通費が必要である」と回答する者が3割弱あるため、無償かあるいは交通費相当を支給することで体制を構築できそうである。

農業用機械・建設用機械を除雪活動に活用できると回答した者は5割弱みられる。これは大潟村固有のことかもしれないが、除雪機械を持った除雪ボランティアの参加可能性が高いことが推察される。

自ら所有する除雪機械を除雪ボランティア活動に活用することについては、免許の有無、機械の損耗への懸念、操作技術、燃料費等がネックとなっているようである。

また、「除雪機械のみを提供することは可能」との意見や、「除雪機械とは関係なく人力でのボランティア協力については参加可能」という意見、「専業農家による冬期の除雪活動は充分可能」との意見がみられることから、除雪機械の使用は別にして、農業従事者による除雪協力の可能性は期待できそうである。

#### < 要点 >

- ・ 隣接市町村の範囲までなら農業従事者による除雪協力の可能性は高い。
- ・ 農業従事者が保有する農業機械等を除雪活動に転用することについては、5割弱は「活用できる」と回答しているが、実現にあたっては、免許の有無、機械の損耗への懸念、操作技術、燃料費等がネックになっている。

#### 【今後の方向（秋田県全体として）】

既存除雪ボランティア組織による農業従事者への参加の呼びかけの徹底

秋田県の産業構造の大きな特徴として農業従事者の比重が高いことがあげられる。さらには、比較的冬期間に時間のとれる稲作農家が多数みられることもポイントである。アンケート調査からみると、居住地域の周辺であれば除雪協力の参加意向が高いことから、豪雪時の地域除雪の担い手として農業従事者に期待できそうである。

湯沢市ボランティア組織調査によると、農協職員による除雪ボランティア参加はみられるものの、農業従事者が多数参加するケースはみられないようである。そのため、既存の除雪ボランティア組織が農業従事者の参加を呼びかけていくことによって、農業従事者の協力を顕在化させる方向が考えられる。

隣接する市町村単位で農業従事者主体の除雪支援組織を創設

隣接する自治体、農協、社協等が連携しながら、地域内の農業従事者による除雪ボランティア組織を構築する方向も考えられる。

## 4 - 4 地域外ボランティアとの平時からの関係づくり

湯沢町福祉除雪ボランティア隊交流会の開催 (湯沢町社会福祉協議会)

【新潟部会】

## (1) 実施目的

新潟県湯沢町では、平成 17 年度の豪雪時にボランティアに来ていただいた方を、「湯沢町福祉除雪ボランティア隊員」として登録している。このボランティア隊員のうち、特に町外の方々を対象として、冬期シーズン中に最低 1 回は湯沢町内の高齢者宅の除雪を行う機会を設け、交流を継続するとともに、ボランティア活動の意欲を高め、仲間を増やしていくための講演会事業を実施する。また、同じ「福祉除雪ボランティア」仲間同士での交流を行い、参加者の絆を深め、地域貢献の輪を広げるものとする。

さらに、雪の降らない大都市圏のボランティアの方が、豪雪地において除雪ボランティアを継続したくなるような「モデルボランティア活動地域」を目指す。

## (2) 当日スケジュール

一日目	16:00	湯沢町社会福祉協議会職員集合 (湯沢町公民館)		
	17:00	ボランティア集合 (湯沢町公民館)		
	18:00	参加者集合 81 人 開会宣言		
	18:05	講演会 「活動報告と湯沢町の皆さまへ」 十日町市川西 夢雪隊 関口昌生氏 青森市赤坂スノーバスターズ 佐藤好文氏 財団法人日本システム開発研究所 諸橋和行氏		
	19:10	挨拶 湯沢町社会福祉協議会長 樋口昌保氏 湯沢町ボランティア連絡協議会 会長 中谷真利子氏 来賓挨拶 国土交通省都市・地域整備局地方整備課 島多昭典氏		
	19:15	乾杯 湯沢町災害ボランティア協会 会長 駒形虎次郎氏 町外からのボランティアさんにインタビュー		
	20:45	閉会 湯沢町ボランティアセンター 所長 南雲實氏		
	二日目	9:15	参加者集合 31 人 (湯沢町ボランティアセンター)	
	9:45	雪かき講習 (かんじき・スコップ・スノーダンプ) 地元指南役 笛田氏 樋口氏		
	11:30	越後雪かき道場初級コース 修了認定証授与 指南役講評 解散		
12:00	旭原福祉工場にて昼食 解散			

### (3) 実施内容

一日目は、湯沢町内ボランティアと町外ボランティアの交流を目的とした講演会及び懇親会を行い、二日目は主に町外ボランティアを対象として雪かきの実践講習及び雪かき体験を行った。

<一日目（講演会：18:00～19:10、懇親会：19:10～20:45）>

- ・湯沢町公民館を会場とし、当日の参加者は合計81人（内訳：町外17人、町内ボランティア49人、社会福祉協議会15人）であった。
- ・講演会では、十日町市川西にある除雪ボランティア組織「夢雪隊（むせつたい）」の関口昌生氏、青森市で地域コミュニティによる除雪ボランティア活動を展開している「赤坂スノーバスターズ」の佐藤好文氏の両名から、これまでの先進的な活動を紹介していただいた。
- ・講演会の後は同じ会場で立食形式の懇親会を開催した。町内外のボランティアがそれぞれ自由に歓談し、交流を深めた。

写真4-9 講演会場の様子



写真4-10 懇親会乾杯の挨拶



<二日目（雪かき体験・実践講習：9:45～11:30）>

- ・二日目の参加者は31人（内訳：町外21人、町内ボランティア6人、社会福祉協議会4人）であり、越後雪かき道場として、地元の指南役から実践講習を受けた。

写真4-11 地上の雪かき講習



写真4-12 記念写真

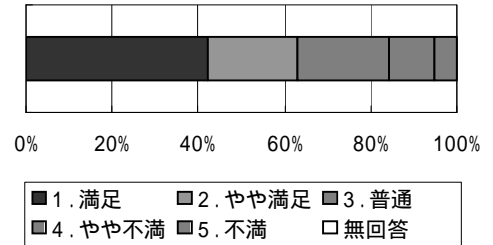


## (4) 評価 - アンケート結果 -

## 1日目の講演会について(無回答には1日目の不参加者を含む)

## 内容

	回答者数(割合)
1. 満足	8 (42.1%)
2. やや満足	4 (21.1%)
3. 普通	2 (10.5%)
4. やや不満	0 (0.0%)
5. 不満	0 (0.0%)
無回答	5 (26.3%)
合計	19 (100.0%)



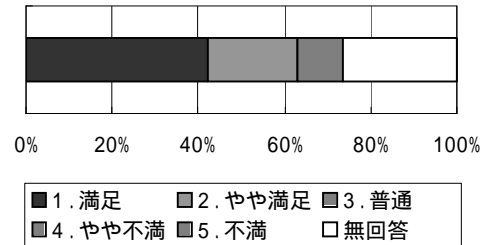
## 感想や提案など

- ・大変良かった。一般の人にこの内容を知らせてほしい。
- ・除雪のノウハウを教えてもらえてよかった。
- ・今回が初めての参加だったが、少雪だったので、講演会での話が大変参考になった。
- ・もっと詳しく聞きたかった。
- ・貴重な体験であり、先進的な取組を知ることができた。

## 2日目のボランティア除雪について

## 内容

	回答者数(割合)
1. 満足	8 (42.1%)
2. やや満足	4 (21.1%)
3. 普通	4 (21.1%)
4. やや不満	2 (10.5%)
5. 不満	1 (5.3%)
無回答	0 (0.0%)
合計	19 (100.0%)



## 感想や提案など

- ・もう少し雪があればよかった。
- ・良好。長い間続ける必要がある。もっと他の人にも知らせる必要あり。
- ・講習会は雪がなかったので、時間が短いのは止むを得ない。前日の講演会、交流会は大変良かった。
- ・昨年と比べると作業自体はだいぶ軽めだったが、逆に時間にゆとりがあったため、かんじきや逐一の助言などをいただき、楽しく、気楽に雪かきに取り組むことができた。
- ・かんじきの使い方を教えてもらえてよかった。
- ・少雪なので除雪自体は簡単だった。かんじきなどの体験は非常に面白かった。
- ・建物周囲の除雪編、屋根の雪下ろし編の2つあれば実践的ではないか。

## 4 - 5 除雪ボランティアの育成と受け入れの仕組みづくり

### 越後雪かき道場の開催

【新潟部会】

#### (1) 実施概要

##### 1) 目的

屋根雪及び家屋周辺の雪処理は、自助または地域内での対処が基本であるが、昨年の記録的豪雪のような場合、地域内における雪処理の担い手が完全に不足するため、地域外からの応援や協力に頼らざるを得ない。災害救助法や自治体間の防災協定等に基づく広域的な公的支援(公助)は不可欠であるが、「民」の力をうまく活用する方法についても考えていく必要がある。

平成18年豪雪では、新潟県内において、雪国以外の地域の方から除雪ボランティアの申し出を多数いただいております。従前はみられなかった傾向である。しかし、雪に不慣れなボランティアも多く、即戦力にならない状況もみられた。また、受入側の自治体等もこのような状況に慣れていないため、断るケースもあった。

雪処理に慣れていない方がいきなり雪国を訪れて、自立的に作業を行うことは困難である。必要な知識と技術を学び、実施地域・場所をコーディネートしてもらってはじめて力を発揮することができる。しかも豪雪になってからあわてて対応するのではなく、平時からそのような学びと体験の機会を設け、経験のない方に雪に慣れていただくとともに、雪国の地域住民と顔の見える関係を築いていくことが重要である。

そのため、新潟部会では、地域外からのボランティア等に雪処理作業に必要な技能や安全確保の知識などを伝えるとともに、受け入れのための仕組みを構築する取組として、「越後雪かき道場」を企画・実施した。

##### 2) 実施体制

越後雪かき道場は、NPO法人中越防災フロンティアを中心に、多くの関係機関の連携の下で実施しており、実証実験における体制を整理すると、図表4-28のとおりである。

図表4-28 越後雪かき道場の実施体制

